

Smile Woman! インタビュー①④!

この人の仕事のかたち
どこか輝いて見える「仕事」をしているあの人にズームアップ。

Junko Sato

丹念に育てた珠玉の さくらんぼ・ぶどうを

JR赤穂線・香登駅から南方向へ約1.5kmの場所にある観光農園・寿園。初夏にはさくらんぼを販売し、また秋にはぶどう狩りが体験できる。土づくりや栽培方法、また顔の見える産地直売にこだわった同園は、県内はもとより全国的にも評判を集め、シーズンには美味い果物を求める多くの来園客で賑わう。佐藤純子さんは、先代である父親の志を受け継いで園長を務め、果樹の栽培管理や来園するお客様への接遇など全般を取り仕切る。

◎「本物のさくらんぼ」を岡山に

そもそもさくらんぼを栽培する農園は、岡山ではとても珍しい。そのきっかけをうかがうと、「山形出身の



父が岡山に移り住んだ際、馴れ親しんだ味との違いに驚き、「本物のさくらんぼの美味しさを伝えたい」と農業に転身して栽培を始めた」という。同園が佐藤錦、高砂、山形美人など、名産地の山形でも有名な品種を多数栽培しているのもうなずける。寒冷地に適し、非常にテイクオフなこれらの品種を、温暖な岡山で栽培する苦労は並大抵ではない。それでも純子さんは「仮に本場の山形で販売しても、きちんと評価してもらえないものを育てています」と胸を張る。

◎大きな房の完熟ぶどうを

また、寿園のもう一つの看板商品のぶどうは、お客様が農園内に入って好きを房を選び、自ら収穫して購入することができ。純子さんは「一つ収穫したかわからないものではなく、お客様自身が選んだもってきたぶどうを食べたいだけです」とそのメリットを語る。

また同園イチ押し「金太郎ぶどう（瀬戸ジャイアント）」は、オリジナル商品のため細かい規格は定めておらず、美味しさを鮮度を大切にしている。そのため寿園では、手間暇をかけて大きな房を実現させ、しっかりと完熟したものを提供することができる。「お客様の「甘い」「大きい」という声を聞くことが本当に嬉しです」と純子さんは目を細める。

◎いよいよぶどう狩りシーズン到来!

オフタイムの楽しみをたずねると、「料理やお菓子をやるのが好きで、誰かに「美味しい」と言ってもらえるのが楽しみです」と話す。その笑顔には、オン・オフの違いなく、人をもてなすことを何よりの喜びとする彼女の人格がにみ出る。

寿園では、いよいよ9月中旬よりぶどうの収穫期を迎える。土づくりや栽培方法に独自の工夫をこらし、丹念に育てられた完熟ぶどうは、まさに珠玉の逸品。また味わったことのない人は、ぜひ訪ねてみて。

さくらんぼとぶどうの寿園
園長佐藤 純子さん
Kobukuten Ino

080-996-699-90772